

長畝ふるさと通信

【2012年8月号】

■ とにかく暑い8月の農作業

① カメムシ防除

8月10日、丁度コシヒカリの穂が出る頃、カメムシの防除を行います。カメムシのかじってしまった穂は「斑点米」となり、格落ちの大きな要因となるからです。大半の圃場はラジコンヘリによる防除でまかなうことができますが、ヘリが飛べない家の周辺や電線が通っている圃場については、昔ながらに田んぼの両端をホースでつないで、農薬を散布して



いきます。ジリジリと太陽が照りつける中、背中に動力散布機を背負い、畦道をひたすら歩いて粉剤を散布します。マスクをしても口の中にまで農薬が入り込みます。汗でつま先までぐっしょりと濡れて全身農薬まみれです。お盆前の辛い作業です。

② 畦草刈り

カメムシは田んぼの周りの雑草を住み処にしています。そこで、畦草刈りは8月の必須作業。ジリジリと太陽が照りつける中、背中に草刈り機を背負って、雑草の生い茂った畦道を刈り進んでいきます。日陰は一切ありません。喉はガラガラに渴き、パンツまでぐっしょりと濡れていきます。休憩で飲む冷たいお茶がどれほど美味しいか・・・ビールにはかないませんが。



③ 草ネム取り



お盆を過ぎた頃から稲の合間から草ネムが伸びてきます。このまま稲と一緒に収穫すると、黒い豆状の種が入り「異物混入」となってしまいます。そこで田んぼをスミからスミまで歩いて、一本ずつ草ネムを抜き取っていくのです。ジリジリと太陽が照りつける中、腰から胸の辺りまで伸びた稲の中をひたすら歩いて草ネムを見つけては抜き、見つけては抜き・・・。時にはぬかるんだところで転けたりし

ながら半日も歩き回ります。

■ ミニトマトの収穫始まる

今年から取り組みはじめた養液土耕栽培によるミニトマトの収穫が始まりました。お盆過ぎから



週2～3回、3kg段ボールで10箱から多いときは40箱くらい出荷しています。収穫は朝6時から8時まで約2時間、その後選別作業に1～2時間かけ、10時頃までに市場へ出荷します。ビニールハウスは早朝6時でも中は蒸し暑く、トマトの香りが充満しています。収穫を終える8時頃には既に全身汗びっしょりになります。当然朝ご飯は取れたてのトマトと冷たい水だけ。これでも痩せないから不思議です。ちなみに

僕たちが栽培しているミニトマトは「アイコ」といい、ミニトマトにしては大玉で、皮は比較的固いのですが、甘味がありとてもジューシーなトマトです。

■ お米屋さんが今年も来島、交流しました。

今年で3回目となったお米屋さんとの現地視察交流会。組合の「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」を販売していただいている東京・大阪などのお米屋さん12名が来島されました。

太陽がジリジリと照りつける中、稲穂の出揃った田んぼを皆さん、とても熱心にご覧になり今年の出来栄えを確認されていました。また、お米を取り巻く情勢報告や産地への要望事項など様々な問題提起もなされ、生産者としてとても勉強になりました。懇親会の席上では伝統芸能の「のろま人形(写真)」や地元青年会の「鬼太鼓」も披露され、和やかなうちに交流できました。わざわざ自費で佐渡まで来られたお米屋さんたちにはただただ、感謝です。



■ 豊作の予感！？



8月は雨がほとんど降らず、暑い日が続きましたが生育は順調です。昨秋から土壌改良に努め、初期生育にも十分配慮し、穂肥もいつもより多めに施肥し、増収に努めてきました。その成果がもうすぐ出てきます。今年生まれた朱鷺の幼鳥も順調に巣立ち、独り立ちしています。朱鷺に習ってお米も全国のみなさんの期待に応えたいものです。

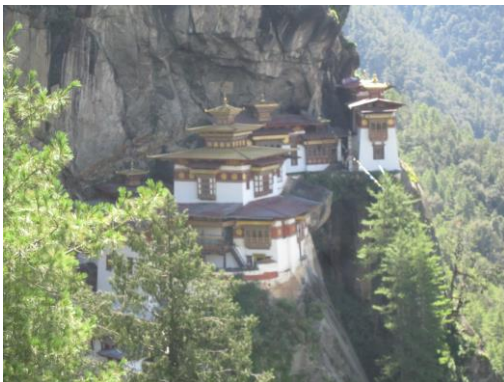
■ 幸せの国「ブータン王国」へ行ってまいりました。

8月13日から18日までお盆休みを利用して幸せの国「ブータン王国」へ行ってまいりました。ブータン王国はインドと中国という大国に挟まれた九州ほどの面積しかない小さな国です。「3. 11 東日本大震災」の折、100万ドルの義援金を頂き、5代国王ワンチュク夫妻が来日したことで日本ではおなじみとなりました。また、世界一幸せな国として「国民総幸福量(GNH)」を提唱して世界中から注目を浴びている国です。今回は長年ブータンを研究しておられる大学教授とトキのお米が縁で知り合い、同行させていただきました。



①ブータンは世界で唯一、チベット仏教を国教とする国です。町の到る所で宗教的な建造物を見ることができます。右の写真はチョルテンと

呼ばれる仏塔で、早朝から大勢の人達が集い、塔の周りを必ず右回りをしながらお祈りをするのだそうです。ブータンの人々は自分のことより、世界中の人々の幸せを願って祈るのだそうです。



②左の写真はタクツァン僧院といい、ブータンに仏教を広めたグル・リンポチェが虎に乗って飛んできて、ここで瞑想したと言われるところです。標高3200メートルのところに500メートルほど垂直に切り立った屏風のような岩壁に鎮座しています。ただでさえ、標高2000メートル級の高地にいて息苦しいのに、さらに1000メートルも標高の高いお寺へ山道を息も絶え絶え4時間もかけて死ぬ思いでたどり着き、ありがたい仏陀の仏像を拝み、また1時間もかけてヒザをガクガクにして降りてきました。まさに苦行でした。でも「ブータンの聖地」と呼ばれるところへ行けたことは一生の思い出です。



③ブータンの主要産業は農業(しかも自給的)とインドへの水力発電による電力輸出です。想像を絶する棚田と牛の放牧、そして行けども行けども切り立った断崖に走るたった1本の国道。その国道の脇には小さな子供が親と一緒に野菜やリンゴなどを直売する風景が到る所がありました。ブータンには「自然環境保護」という言葉がありません。それほど自然なのです。「幸せですか?」

と訪ねると誰もが不思議そうな顔をして「はい」と応えてくれました。「健康で仕事があって家族と一緒にならそれで幸せです。」日本人が忘れてしまった大切なことがブータンでは今もなお、当たり前前のごとして生活に溶け込んでいるのでしょう。

佐渡を「日本のブータン」にしたい！そんな夢を見る旅でした。